

市議会だより

DAISEN CITY COUNCIL NEWS



令和2年 大仙市中学生議会

内容 CONTENTS

- 第4回定例会の概要ほか 2～4
- 決算審査概要 5
- 一般質問 6～9
- 市政懇談会での意見・回答 10～13
- 委員会審査のあらまし 14～15
- 編集後記ほか 16

年頭のごあいさつ



大仙市議会議長
金谷道男

市民の皆さまには、令和初めての新年を希望に満ちて迎え、ご健勝でお過ごしのこととお喜び申し上げます。

また、平素より市議会に対しまして、温かいご支援とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年は、1月の熊本、2月の北海道の地震や東日本に甚大な被害をもたらした9月の15号や10月の19号と度重なる台風の来襲など、相変わらず全国的には災害の多い年でした。被災地の皆さまにはお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興・復活を願っております。

大仙市では平成29年、大きな水害に見舞われましたが、国・県の支援も受けながら災害復旧に努め、ようやく復旧のめどが付きつつありますが、防災に完全はありません。気を緩めることなく、ハード・ソフト両面で備えをしっかりとしていく必要があります。

本市は、3月で誕生してから15周年を迎えますが、その間、人口減少やインターネットの進化、各分野で進む国際化など、誕生時の想定以上に取り巻く環境は激変しています。しかし、状況がどんなに厳しくても、市民の安全で安心な生活に役立つまちづくりをしなければなりません。

議会は、市長としっかりと議論を重ね、地域の隅々まで届く市民のための市政を進める責任があります。昨年ラグビーワールドカップや野球のプレミアリーグで活躍した日本チームのように、議会がワンチームになり、熟慮と熟議で「決定する」「政策提言する」「活動する」議会を創り、市民の皆さまの負託にこたえてまいります。

結びに、本年が市民の皆さまにとって幸多い年でありますようご祈念申し上げます、新年のごあいさつといたします。

第4回定例会

第4回定例会は、11月26日から12月16日までの21日間の会期で行われました。

本会議1日目に、老松市長の市政報告が行われました。また、継続審査となっていた平成30年度一般会計・特別会計歳入歳出決算13件、市当局提出の条例案3件、補正予算案7件を、それぞれ認定・原案可決しました。

本会議4日目に、市当局提出の条例案6件、単行案17件、補正予算案2件、議会運営委員会提出の条例案1件を原案可決したほか、陳情4件を採択、1件を一部採択、3件を不採択とし、意見書案4件を原案可決しました。一般質問は、2日間にわたって7人の議員が市政全般について、市当局に質問しました。

※第4回定例会の録画映像は、大仙市ホームページの議会のページでご覧いただけます。



本会議第3日 一般質問

条例案

主なもの

▼会計年度任用職員制度の施行に伴う関係条例の整理に関する条例の制定について

【全会一致で可決】

地方公務員における臨時職員および非常勤職員の適正な任用および勤務条件の確保を図るため、地方公務員法の改正により一般職の会計年度任用職員制度が創設され、来年度から施行されることに伴い、関係条例において会計年度任用職員の適用関係を整理するなどの所要の改正を行うものです。

単行案

▼指定管理者の指定について

【関連議案16件全会一致で可決】

補正予算

▼令和元年度大仙市一般会計補正予算(第7号)

【全会一致で可決】

歳入歳出予算の総額にそれぞれ1億1091万4千円を追加し、補正後の総額は444億6235万2千円となりました。

第4回定例会の概要

人事院勧告を受けた国の一般職の給与改定に倣い、一般職の人件費、議員および市長等の期末手当の補正を行うものです。

▼令和元年度大仙市一般会計補正予算(第8号)

【全会一致で可決】

歳入歳出予算の総額にそれぞれ1億6012万3千円を追加し、補正後の総額は446億2247万5千円となりました。

主なもの

- ・庁舎管理費(南外支所屋上防水改修工事費) 2200万円
- ・電子計算管理運営経費(RPAツールおよびWeb会議システム導入業務委託料) 538万2千円
- ・乳幼児健康診査費(乳幼児健康診査結果の情報連携に係る健康管理システム改修費) 288万8千円
- ・国土調査事業費(西仙北および協和地域の地籍調査経費) 688万円
- ・教育振興費補助金(各種大会派遣費補助金 小学校分) 137万8千円
- ・教育振興費補助金(各種大会派遣)

費補助金 中学校分)

534万7千円

陳情

▼田仲野地区の家屋移転希望者の家屋移転に関する陳情書

【賛成多数で一部採択】

▼市議会として、秋田市新屋への地上イージス配備反対の意見表明を求める陳情

【賛成少数で不採択】

【賛成討論】
藤田和久議員(日本共産党)

地上イージスは憲法9条上その配備の良し悪しが問われるものであるが、今回の陳情は秋田市新屋への配備反対の意見表明を求めるものである。
秋田市新屋への配備は、あまりにも住宅地に近い。世論調査においても秋田県民の60パーセント以上、大仙市民の65パーセント以上が反対している。秋田県の総合的な安全確保と県民・市民の声を尊重して、新屋への地上イージス配備には反対であり、この陳情には賛成するものである。

▼医師養成定員を減らす政府方針の見直しを求める意見書の提出について

【全会一致で採択】

▼介護従事者の全国を適用地域とした特定最賃の新設に関する意見書の提出について

【全会一致で採択】

▼お金の心配なく、国の責任で、安心してくらせる社会の実現のため社会保障制度の拡充を求める陳情

【項目(1)】地域に必要な医療、介護、福祉、年金、障害、教育、子育て、生活保護、雇用等、いのち・くらしに直結する社会保障制度・体制を国の責任で拡充すること

【項目(2)】不公平な税制を正し、防衛費や大型開発などの税金の使い方を見直しして、社会保障予算を大幅に増額すること

【賛成少数で不採択】

【賛成少数で不採択】

▼ケアプラン有料化などの制度見直しの中止、介護従事者の大幅な処遇改善、介護保険の抜本的改善を求める陳情

【賛成少数で不採択】

▼「深刻な医師不足、高齢化の進行、公共交通機関の衰退など地方における公立・公的病院のおかれていく医療事情の状況把握を欠いたまま、国の基準に基づく一方的な再編・統合は行わないこと」を国に求める意見書提出の陳情書

【全会一致で採択】

▼大仙市議会議員の定数を定める条例の一部を改正する条例の制定について

【賛成多数で可決】

議会運営委員会提出議案

▼大仙市議会議員の定数を定める条例の一部を改正する条例の制定について

【賛成多数で可決】

議会改革および行財政改革の推進に資するため、本市の人口減少や財政力等を総合的に勘案し、議員の定数を28人から24人に改めたものです。

【反対討論】
佐藤文子議員(日本共産党)

市議会議員は、議会の機能である「住民の意思を代表する機能」「住民の意見や要望を市政・議会に反映させる立法機能」「市当局執行部の行財政運営に対する監視機能」を十分に果たし、住民福祉の向上を図るための日常不断の活動が求められている。広大な面積を有する大仙市において、市民の意見要望を届けるには現状28人でも十分とは言えない。議会改革というなら議会基本条例に規定する、議会および議員の活動原則に沿った検証と改善を行うべきである。また、定数削減が大きな財政効果をもたらすとは考えられない。それ以上に民意反映と住民福祉の向上に資するための議員の活動と役割が後退し、市民にとってますます見えにくくなるということが問題である。以上のことから本案に反対するものである。

第4回定例会賛否一覧

議案等名	議決結果	だいせんの会						大地の会						新政会				共産党		市民クラブ		公明党		創生会					
		高橋敏英	佐藤芳雄	古谷武美	橋村誠	児玉裕一	高橋徳久	石塚 柏	鎌田 正	高橋 幸晴	大山 利吉	佐藤 育男	後藤 健	金谷 道男	橋本 五郎	小松 栄治	佐藤 清吉	渡邊 秀俊	小笠原昌作	佐藤 文子	藤田 和久	佐藤 隆盛	三浦 常男	秩父 博樹	梶野 利恵	本間 輝男	富岡 喜芳		
議案第94号 平成30年度大仙市一般会計歳入歳出決算の認定について	認 定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第152号 大仙市議会議員の定数を定める条例の一部を改正する条例の制定について	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○
陳情第31号 田仲野地区の家屋移転希望者の家屋移転に関する陳情書	一部採択	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
陳情第32号 市議会として、秋田市新屋への地上イージス配備反対の意見表明を求める陳情	不採択	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
陳情第35号の1 お金の心配なく、国の責任で、安心してくらせる社会の実現のため社会保障制度の拡充を求める陳情【項目(1)】	不採択	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
陳情第35号の2 お金の心配なく、国の責任で、安心してくらせる社会の実現のため社会保障制度の拡充を求める陳情【項目(2)】	不採択	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
陳情第36号 若い人も高齢者も安心できる年金制度の実現を求める陳情	不採択	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

欠席者は欠、賛成者は○、反対者は●とします。議長は採決に加わらないため、斜線としています。

第5回臨時会

第5回臨時会が10月4日に招集され、市当局提出の条例案1件、単行案1件、補正予算案1件、当初予算案1件を原案可決しました。

▼令和元年度大仙市一般会計補正予算（第5号）

【全会一致で可決】

・企業団地整備事業特別会計操出金 610万5千円

▼令和元年度大仙市企業団地整備事業特別会計予算（大曲地域の大川西根地区に企業団地を整備するために必要な経費）

【全会一致で可決】

610万5千円

第6回臨時会

第6回臨時会が11月8日に招集され、市当局提出の補正予算案1件を原案可決しました。

▼令和元年度大仙市一般会計補正予算（第6号）

【全会一致で可決】

・大仙市第三セクター緊急支援経費（太田町生活リゾート株式会社に



起立(挙手)採決（議案第152号）

対する緊急経営安定事業費補助金） 947万3千円

平成30年度決算を認定

11月5日・6日に四つの分科会で審査を行いました。

◆決算特別委員長の審査講評

はじめに、財政の健全化の進捗についてですが、実質公債費比率および将来負担比率が改善されていることを評価したいと思います。

今後も、人口減少等に伴う地方税の減少が見込まれることから、人件費や補助金等の見直し、また、市債発行の抑制や充当可能基金の増強に努めるなど、財政の健全化に取り組んでいただきたいと思えます。

次に、事務事業の実施に当たっては、常に予算執行状況を確認しながら効率的な事業遂行に努めるとともに、計画した実績に満たない事業については検証を行い、市民にとって効果的な事業となるよう、不断の見直しをお願いしたいと思います。

次に、収入未済額については、関係各課の鋭意努力により年々減少してきておりますが、今後も、収納事務マニュアルや債権管理台帳等を活用しながら、課題債権の抽出や対応を強化し、削減に努めていただきます。

次に、市政評価において重要度が高いものの満足度が低いところリンクされていた雇用、就労、商工業の分野についてであります。

新規創業者を支援する創業支援事業や企業の求人活動と労働環境の整備を支援する人材獲得応援事業の実績は前年度を上回っておりますが、地域全体の活性化につなげるためには、さらなる取り組みに期待したいと思います。

職員数が減少しているが、再任用職員および臨時職員等の処遇や取り扱いを十分に留意し、住民サービスの低下を招かないよう努められた。

◆各分科会の主な審査意見（各意見の中から一部を掲載しています）

総務民生分科会

職員数が減少しているが、再任用職員および臨時職員等の処遇や取り扱いを十分に留意し、住民サービスの低下を招かないよう努められた。

企画産業分科会

地域交通対策事業について、各地域の高齢化に伴った共助団体等による公共交通の在り方を検討された。

教育福祉分科会

キャリア教育推進「総合的な学力育成」事業費のうち、「大仙ふるさと博士育成」事業について、本事業の成果は、長く将来にわたって現れてくるものであり、重要な事業と考えられる。将来の「ふるさと」を担う人材を育成するという観点から、保護者および家庭はもとより、地域全体で広がっていくような方策を推進されるよう努められたい。

建設水道分科会

橋りょうの修繕や除雪機械の更新については、計画や目標に対して遅れが目立つようになってきているので、計画や目標の達成に向けた対応について検討されたい。

【賛成討論】

高橋徳久議員（だいせんの会）

地方交付税の減額などにより大変厳しい予算執行の中、各種事業に積極的に取り組み、住民ニーズに沿った事業を展開し有効活用された決算であると思う。また、実質公債費比率、将来負担比率などの財政指数も前年度より改善されており、さらには市税等の収納率も向上させているなど財政の健全化に積極的に取り組んでいる。今後も市民生活の向上のため引き続き努力されることを期待し賛成する。

【反対討論】

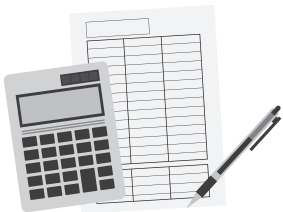
藤田和久議員（日本共産党）

人件費や地方交付税の削減を目的とするトップランナー方式の導入や、個人情報漏えいの危険があるマイナンバー制度の推進など地方財政計画に従っていること。また、教育振興費補助金のうち、一部高校への補助金が多く不平等であること。そして安本法制強行の下、自主事業として開催する自衛隊音楽隊の演奏会は問題があることから、予算案に反対している。本決算はその執行であり認められない。

採決の結果、賛成21人、反対2人と認定されました。（賛否一覧表のとおり）



審査内容を述べる
佐藤 芳雄 決算特別委員長





藤田 和久 議員（日本共産党）

Q 台風の大型化による防災対策は

A 堤防の強化等を国・県に要望していく

質問 台風の大型化、降雨量の増加に備え、堤防の強化や河川のしゅんせつ、避難所の環境改善が必要と考えるが。

市長 重要水防箇所は県管理河川も含め国土交通省、県、広域消防本部、消防団と一緒に毎年合同巡視をし、対策を講ずることになっている。

堤防の強化のため、暫定堤防といわれる未完成区間が早期に解消されるよう要望していく。河川のしゅんせつは昨年度も国、県、市管理河川で行っているが、今後も河川状況の把握に努め、しゅんせつの必要性がある場合には国や県に対し強く要望していきたい。

東日本大震災で避難所生活でのストレスや災害関連死が課題となったため、避難所内での良好な生活環境確保の指針が示されており、当市でも災害備蓄品の分散や職員研修の実施、液体ミルクの備蓄、応援

協定の締結などの対策を講じている。今後もこれまでの規模を大きく上回る大型台風の襲来も想定されるため、市民の命を最優先に、逃げ遅れゼロを目指した「地区防災マップ」や「マイ・タイムライン」、「避難行動要支援者名簿の活用」など、自助・共助を活用した避難体制の確立も進めていきたい。

◆福部内川の洪水対策について

質問 福部内橋下流側と、丸子川合流部に固定の排水ポンプを設置できないか。

建設部長 福部内橋下流部の固定排水ポンプ設置は、構造や勾配、流水方向などに課題があり、民家前の側溝を活用し、可搬式ポンプで排水をする。丸子川合流部の固定排水ポンプの設置は県と協議をしていく。

質問 中良野橋が堤防より低いため、水かさが増えたときの対処と、福部内川上流部の堤防かさ上げ等を実施できないか。

建設部長 中良野橋は県で令和4年度までに橋の架け替えを予定している。福部内川上流部は、浸水被害が見込まれる箇所のかさ上げ等の対策が推進されるよう県に要望していく。



三浦 常男 議員（市民クラブ）

Q 災害対応できる職員育成を

A 市職員の消防団への入団促進に取り組む

質問 災害対応における若手職員のスキルアップのためにも、消防団への加入を促進すべきと考えるがいかがか。

佐藤副市長 若手職員の消防団への加入促進については、毎年4月上旬に実施している新規採用職員の研修の中で、総合防災課の消防担当職員が消防団の活動内容や待遇等を説明し、入団を進めている。現在、市職員の団員は39名で、消防団員としての地域での活動は、市職員としての自己研さん、地域住民とのコミュニケーションを図る場として、職務上非常に有意義な一面もあると考えている。消防団員を対象とした研修や講習会などで習得するロープワークやポンプ操作などの技術のほか、災害対応の基礎知識は、水害対応時の排水活動や避難誘導等で大いに生かされるものと思う。地域の安全安心を守る団

員の確保のため、市職員の消防団への入団促進に、引き続き取り組んでいく。

◆水害時の内水排水について

質問 万太郎川の内水氾濫対策として、排水用ポンプを設置すべきと考えるがいかがか。

佐藤副市長 平成29年7月の水害時には中堰樋門なかぜきひもんの閉鎖で、花館地区の柳町や中野下川原地内で住家の床上・床下浸水被害が23件発生したほか、広範囲にわたり水田が冠水している。中堰樋門上部は他の堤防とは違い、県道であるため通行量も多く、堤防を乗り越して配水管を設置する構造の常設排水ポンプの設置や、サニーホースによる排水も困難である。

現在、課題となっている県管理河川が関連する市内の内水対策箇所について、県との広域的かつ総合的な治水対策を協議をしている。今後も県と共に常設排水ポンプや雨水貯留施設の設置、上流部での田んぼダムいんぼダムの推進など、個々の条件に即した治水対策を進めていく。



高橋 徳久 議員 (だいせんの会)

Q 今年度の職員採用試験受験者数は

A 前年度110名に対し、今年度は218名が受験している

質問 職員採用試験にSPI3 (※) を導入したことにより、どのような変化があったか、また受験者の出身地について伺う。

市長 学力重視から人物重視へシフトし、基礎学力も考慮しながら、対人関係・協調性・課題遂行・企画力といった観点も踏まえて一次試験を行ったところ、受験者数が前年度より大幅に増加している。受験者は、上級・学芸員・保健師・管理栄養士・移住定住者などで、前年比約2.1倍の170名が受験している。内訳は、県外103名、市外40名、市内27名である。また、初級・初級土木は、前年比約1.7倍の48名が受験し、内訳は県外7名、市外5名、市内36名である。

質問 今年度の採用辞退者はいるのか。

市長 現時点で10名。今年度は、辞退により欠員となった場合に備え、補欠合格者を設定して成績上位

から順に繰り上げ合格者としている。

質問 新規採用職員の配置先はどのように決定し、本人の希望は取るのか。また、人事異動についても希望は取るのか。取っているとすればどのように反映しているのか。

市長 新規採用職員の配置先は、採用試験の面接時や自己紹介票で本人の希望を確認して、得意とする分野や能力、出身地などを総合的に判断して配置している。人事異動に伴う本人の希望については、毎年、職員全員から異動希望の有無、希望する勤務地や業務などを記載した自己申告書を提出させて、できる限り本人の希望に沿うよう努めている。

◆大仙市受動喫煙防止対策について

質問 県の施設「生涯学習センター」のように、公民館などでは、野外の可能な場所に喫煙所を設置してはどうか。

健康福祉部長 現時点では、大仙市受動喫煙防止対策指針並びに行動計画で、敷地内禁煙としている施設に、再び喫煙所を設置することは考えていない。

※SPI3とは…リクルート社製の就職採用テスト



秩父 博樹 議員 (公明党)

Q 骨髄提供する際の休業助成制度は

A 制度設計に向けて検討したい

質問 骨髄提供する際の休業助成制度を検討するべきと考えるがいかがか。

西山副市長 昨年度、秋田県内全市町村を対象に実施したアンケート調査では、休業助成制度を「実施」あるいは「実施を検討している」と回答した市町村はなく、本市でも実施していない。秋田県がこうした現状にあることを鑑みて、山形県の先行事例なども参考にし、市単独助成も視野に入れながら制度設計に向けて検討してまいりたい。

質問 骨髄移植後のワクチン再接種費用助成はできないか。

西山副市長 白血病等の治療により免疫を失った方へのワクチン再接種費用の補助制度については、現段階では、国・県の動向を注視しながら検証していく。

質問 ワクチン再接種費用を市が独自で助成を実施できないか再度伺う。

西山副市長 平成30年7月に、厚生労働省が全国1,741の市区町村を対象に実施した調査では、「骨髄移植等の医療行為により免疫を消失した方に対する再接種の助成事業」を行っている自治体は90団体で、割合にして5.2パーセントと低い状況のようであった。当該助成を市が独自で実施することについては、現実的に大仙市民の中で、骨髄移植等の医療行為を受ける方が実際にどれだけおられるかということになる。大仙市ではがん患者医療用補正具購入費補助金として、医療用ウィッグと乳房補正具に対し県と足並みをそろえて助成を実施している。これらを踏まえ、白血病も含めて、様々な病気で治療されている方への公的助成の在り方について、全国的な意識の広がりを見守り、医師会等の専門的な見地からご意見を伺う機会を設けるなど、総合的に判断していきたい。

※この他、少子化・人口減対策に資する職場作りおよび意識改革について質問しました。



佐藤 文子 議員（日本共産党）

Q 介護予防・日常生活支援総合事業実施から2年、評価は

A 利用実績・実施事業所ともに増え、有効に利用できている

質問 総合事業に移行した要支援1、2の方々にとって各サービスは有効な利用になっているのか。改善点はないか、併せてこれまでの総合事業をどう評価しているか伺う。

健康福祉部長 介護予防・日常生活支援総合事業は利用実績や実施事業所が増え、新たなサービスを拡充し選択肢も増えており、各サービスは有効に利用できていると認識している。しかし事業所の参入がまだまだ少ないことから、事業所訪問をするなど参入を働きかけたい。また、一般介護予防事業は、より効果的なプログラムとして食事の大切さや、栄養改善を啓発するメニューを多く取り入れた事業の実施と併せ、住民主体の介護予防活動の育成・支援を実施していく。

◆保育士確保対策について

質問 保育士不足が深刻さを増している。背景として給料が安い。職員が少なく労働時間が長いなど、過酷な労働が指摘されている。保育士確保対策として給料が全産業平均並みとなるよう、市として思い切った給料、賃金の引き上げを図ってはいかがか。また、保育士の負担軽減と増員のため、国に対して保育士配置基準の改善を求めるべきではないか。

健康福祉部長 平成28年度以降、臨時保育士の処遇改善を目的とした事業をはじめとする、市独自の保育士確保対策を実施してきたが、今後も事業の充実を図っていく。また、全産業平均ベースに近づけるよう、国や県の動向に注視し、運営事業者の協力のもと協議を重ねていく。保育士配置基準の改善については、現在、市では入所児童を受け入れするために必要な人数に加え、過剰な労働とならないよう、保育士の雇用条件等も考慮した基準以上の人員配置となっている。しかし、年度途中の入所受け入れは困難な現状から十分な保育士確保には至っていない。労働実態の認識と現状の分析を行い、保育士の負担軽減につながるよう労働環境の整備に努め、国や県に要望していく。



挽野 利恵 議員（公明党）

Q 安全運転支援装置への補助ができないか

A 国の動向を注視していく

質問 高齢者ドライバーへの支援について免許返納を促すだけでなく、安心して運転し続けるために、安全運転支援装置への補助ができないか。

市民部長 秋田県警察の統計によると、75歳以上の高齢運転者による死亡事故件数は75歳未満の運転者と比較して多く発生し、事故原因は安全不確認、ハンドル操作、アクセルとブレーキの踏み間違いなどの操作ミス、判断誤りなどとなっている。このような状況から、ペダルを踏み間違えた際に急発進を防止する装置は、事故防止に効果があると考えます。

市としては、安全運転支援装置の周知や高齢者向け安全運転教室の開催、運転免許自主返納の呼びかけなどを行い、高齢者ドライバーの交通事故防止を推進していく。現在、国で装置への補助を検討している段階であり、その動向を注視していく。

◆市民会館の自主事業について

質問 入場者数や収支比率などの目標を設定しているか。

教育長 入場者数については収容人数の最大数を目指している。収支比率は、この5年平均でおおむね5割で推移しているため、それを上回る6割程度を目標にしたい。

質問 低い収支比率の事業があるが、どのような評価をしているか。

教育長 収支比率は100パーセントを超える事業もある一方、40パーセントを切る事業もあり、事業の内容や入場料の設定、PRの仕方などの課題がある。

質問 これまでの実績を、その後の事業運営に生かす取り組みをしているか。

教育長 入場料収入の増を図るため、より一層のPR、各種助成制度の利用や共催事業を取り入れていく。入場料金は、収支比率を十分考慮しながら設定するよう努める。

質問 今後の事業実施の方向性について、どのように考えるか。

教育長 「市民会館等運営連絡協議会」で収支比率も踏まえた公演内容を検討していく。



小笠原 昌作 議員 (新政会)

Q 今後の農業振興策強化戦略は

A 「農業と食」構想を進め、地域農業の発展に取り組む

質問 地域農業の担い手不足が深刻な問題となっている。中山間地域の大規模経営体はもちろん、小規模農業や家族農業、兼業農家への施策が急務と考えるが、どのように農業振興策の強化戦略に取り組むのか。

市長 これまで同様の施策の継続だけでは5年後、10年後の将来にわたって地域農業を維持発展させていくことは難しい。将来の地域農業の発展に向け、地域の担い手を確保や、持続可能な強い農業を目指し、恵まれた自然環境を背景に、優れた農産物、発酵食品、地酒など地域資源を最大限生かす、大仙市全体が活気づく裾野の広い産業構想である「農業と食に関する活性化基本構想」を策定する。また、農業を持続的に発展させていくためには、大規模経営体や家族農業など、農業者が共に支えて成り立つものと考えており、持続可能な強い農業の実現に向けた「農業と食」の構想を進め、総合的に地域農業の

発展に向け取り組んでいく。

◆すこやかで元気な高齢者の活動について

質問 地域にとって大きな役割を果たしている老人クラブを、どの様に位置付けし、今後どのように支援していくのか。

西山副市長 老人クラブは、第3次大仙市地域福祉計画で、生きがい活動や友愛訪問活動などにより、高齢者の孤立防止につながる取り組みを担っていただく中心的な組織として位置付けている。今後、各クラブがそれぞれの地域を基盤とし、高齢者が健康で元気になるための多彩な活動を積極的に展開していけるよう支援していく。

質問 スポーツにより、健康で生き生きとした生活を送れる高齢者を増やすための支援をできないか。

西山副市長 第3次スポーツ推進計画で「ライフステージに応じたスポーツの活動と健康づくりの推進」を目標に掲げ、総合型地域スポーツクラブや体育協会で、スポーツとレクリエーションを融合した健康教室等を開催している。老化による運動機能や認知機能の低下と高齢者の閉じこもりを予防するため、高齢者包括支援センターで実施している「さわやか教室」などと連携をとり、心身機能向上を目的とした日常での取り組みも進めていく。

議会の動き

10月

- 4日 第5回臨時会
企画産業常任委員会審査
議員全員協議会
会派代表者会議
議会運営委員会・協議会
各常任委員会協議会
決算特別委員会「総務民生分科会協議会」
決算特別委員会「全体会」
議員説明会
- 17日 広報広聴常任委員会
- 23日 決算特別委員会「分科会会長・副会長会議」

11月

- 5日 議会運営委員会
決算特別委員会「全体会・各分科会」
- 6日 決算特別委員会「各分科会」
- 8日 第6回臨時会
総務民生常任委員会「所管事務調査」
- 11日 決算特別委員会「全体会」
議員全員協議会
議会運営委員会
企画産業常任委員会「所管事務調査」
教育福祉常任委員会「協議会・所管事務調査」
建設水道常任委員会「所管事務調査」
- 15日 秋田県南地域市議会議員研修会

- 18日 議会運営委員会
- 19日 秋田県市議会議員研修会
- 26日 第4回定例会（第1日）
議会改革推進会議
議員全員協議会

12月

- 5日 第4回定例会（第2日）
広報広聴常任委員会
- 6日 第4回定例会（第3日）
議会タブレット端末導入検討会議
- 9日 各常任委員会審査
常任委員会協議会
(総務民生・企画産業・建設水道)
- 12日 議会運営委員会
- 16日 第4回定例会（第4日）
会派代表者会議
議員説明会
- 26日 広報広聴常任委員会



「市政懇談会」でいただいたご要望等に対する行政側からの回答について

市政懇談会でいただいたご要望等のうち、行政側に伝えた事項について、各担当課からの回答をお知らせいたします。

No.	開催場所等	いただいたご意見	担当課	担当課の回答
1	南外	公共交通の在り方について、もう少しなんとかならないか。	まちづくり課	現在、市内全ての公共交通の見直しを行っております。地域や利用者の声を聞き、より利用しやすい交通の仕組みを検討しており、令和2年度中の再構築を目指してまいります。
2	南外	地域協議会の会議録や議事録はPDF化されたものがホームページに公開されているが、元の会議資料が掲載されていない。会議資料も可視化してほしい。	まちづくり課	会議資料等について会議録と同様公表するように検討してまいります。
3	南外	<p>広報誌「だいせん日和」の皆さんからのお手紙は褒めている記事ばかり。批判的なものや、まちづくり的なものはないのか。</p> <p>市民の声を直接市長へ届けるコーナーはできないものか。(横手市では横手市長への手紙のコーナーがある)</p>	広報広聴課	<p>広報紙に寄せられるお手紙の中で褒めている内容だけを選んで掲載しているものではなく、市民に周知すべき意見などについてはこれまでも掲載しています。また、意見要望には即時対応すべきものも多く、担当課と情報を共有し対応しています。</p> <p>また、「市民の声」としてメールや電話で届けられる意見などは秘書課が窓口となり市長に届けています。「市民の声」について、今後はホームページ上でもご案内しますので活用してください。</p>
4	協和	淀川の築堤工事や橋の架け替え工事が順調に進んでいるが、諏訪橋の上流の方と小種の方が住民から見れば不安なので、何かで取り上げてもらえればと思う。	道路河川課	国及び県管理河川に関する対策等となることから、いただいた意見を基に、国および県に対して対策ならびに事業の推進を要望してまいります。
5	協和	くらしの歴史館が閉館中である。全館を法的にクリアするとすれば莫大な費用が掛かるが、使う範囲を決めて部分的に使わせてもらうことはできないか。	文化財保護課	入館者の減少により、令和元年4月から常時一般公開を終了し、現在は収蔵庫として使用しておりますが、維持管理効率化のため、大型受電設備を廃止(2階使用不可)しております。全ての資料を1階に集約作業中であり、館内に余裕空間がございません。会合・レク使用等については、近隣の公民館分館等をご利用願います。
6	大川西根	農地中間管理機構を利用して農地を貸したいと思っても、相手方(借りたい人)は自分で見つけなければいけない仕組みになっている。本来は、中間機構で相手を見つけるべきと思う。農業をやるようとする人を安心させるような施策はできないものか。	農業振興課	市では、農地中間管理機構と農地中間管理事業に関する業務委託契約を締結し、出し手・受け手の掘り起こし等を行っています。出し手と受け手の条件の折り合いがつかないこともあり、農地利用最適化推進委員やJA、土地改良区等の各関係機関と連携し、農業者の方々のご希望に沿えるよう努めてまいります。

No.	開催場所等	いただいたご意見	担当課	担当課の回答
7	藤木	地元住民が管理している川港親水公園野球場の草刈りを委託しているため、お金が掛かる。今後の維持・管理のため、乗用草刈機の購入について市の方からも協力を得られないか。	都市管理課	現在、野球場の草刈りに使用していただいている平成27年購入の自走式草刈機の更新時期に合わせて、地元管理団体との協議をお願いしたいと考えております。
8	藤木	市役所から電話がかかってきても全て63-1111のため、どこの課からかかってきたのか分からない。迅速な対応のためにも早急に、課ごとの電話番号を設置してもらいたい。	財政課	ご提案のあった課ごとの番号設置については今後、機器更新と併せて研究していきます。現状では電話した相手が不在だった場合、電話交換手にその旨連絡して折り返しの電話に対応するようにしておりますが、職員間で周知徹底を図ってまいります。
9	藤木	観光客に尋ねられるため、大曲地域の食について特産品をつくる専門の推進プロジェクトの設置を要望したい。	観光課 農業振興課	平成28年度より食の専門家との連携により、おみやげ商品ブランド「秋田・大仙・せんのぜん」の商品開発および販売強化を進めております。また、今年度は、全庁的なプロジェクトとして「農業と食に関する活性化基本構想」を策定中であります。
10	藤木	なぜ角間川地区中心部に、下水道を整備できないのか。	下水道課	市政懇談会当日に、議会から回答があった内容のとおりですが、平成25年度の整備構想見直し時に、合併特例期間終了後の財政状況と事業完了まで60年以上かかること等から事業計画区域を大幅に見直し、四ツ屋、角間川等を処理区域外とし、合併処理浄化槽での処理区域としたものです。
11	神岡	スポーツ少年団体活動をしているが、他市には観覧席のある体育館が一つか二つある。大仙市にも素晴らしい大会ができる総合体育館を造ってほしい。	スポーツ振興課	平成30年度の市内体育館は、16施設でランニングコストが約6,900万円ほど必要とされております。大型の総合体育館を想定した場合には、現施設の統廃合と、ランニングコストを捻出するための需要が不可欠であり、その検証に努めてまいります。
12	神岡	音楽交流館の体育館の照明やカーテン等を修理してほしい。	生涯学習課	音楽交流館は経年劣化が進んでおり、ご要望の箇所以外にも修繕を要する箇所があります。今後の修繕につきましては、公共施設の見直しを行いながら、緊急性の高いものなど優先順位をつけ、実施を検討してまいります。
13	神岡	合併協での合意事項はどうか検証すべき。また、事業の費用対効果をチェックすべきである。	総務課	おおむね合併協定書のとおり実施しております。合意事項の中にある新市建設計画に登載されている事業については、市民意識調査やワークショップを通じ新市のあり方を精査・検証した上で、「総合計画」や「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に盛り込み進めております。また、平成18年からは「市民による市政評価」を実施しており、要望や評価を基に効果を検証しながら施策に反映させるよう努めているところであります。

No.	開催場所等	いただいたご意見	担当課	担当課の回答
14	はなび・アム	最近、高齢者の交通事故が増えている。横断歩道等の白線が見えない所が多いので直してほしい。	生活環境課 道路河川課	一時停止線、横断歩道等の交通規制に関するものについては、警察署の対応となるため、現地を確認のうえ警察署担当部署へ報告し、対応を進めてまいります。外側線については、全市的に幹線道路を主とした計画的な引き直しを実施しています。今後はさらなる効率化に資するよう整備を進めてまいります。
15	西仙北	道路の白線は何年か前に引いたものであり、どこを歩けばいいかわからなくなっている。 また、事故や犯罪防止のために、通学路に防犯カメラ等を設置してもらいたい。	生活環境課 道路河川課	外側線については、全市的に幹線道路を主とした計画的な引き直しを実施しています。今後はさらなる効率化に資するよう整備を進めてまいります。 防犯カメラ等の設置については、安全性が問われている箇所や人通りの多い箇所への設置が防犯効果が高いといわれておりますが、既に設置している箇所以外ではそのような危険箇所情報が寄せられていないため、現時点でのさらなる設置予定はありません。また、設置に関して、プライバシーの保護、電柱等への架設、電源の引き込み等の条件もあることから警察・関係機関と協議し、具体的要望箇所がある場合は調査・検討してまいります。
16	西仙北	再雇用制度により、社会福祉協議会では事務局長等の管理職ポストに(市役所から派遣された)同じ人が採用されている。そのため役所よりの天下りの実態がある。規約もないがしろになっている。管理職ポストは内部登用が望ましい。	総務課	市職員の派遣については、社会福祉協議会からの職員派遣要請に応じて実施しているものであり、社会福祉協議会の人事管理については、市で答える立場にありません。
17	西仙北	地域枠予算について、もっと弾力的に使えるようにしてほしい。	まちづくり課	限られた予算の中で一定のルールにのっとり運用しています。申請者のやりたいことが実現できるよう、相談や分かりやすい説明を心掛け、柔軟に対応してまいります。
18	西仙北	防災マップの作成に入ろうとしているが、町内同士の連携が遅れている。以前、アンケートに回答したが、それに対する返事もなく、結果が出ていない。	総合防災課	ご指摘のアンケートにつきましては、平成31年3月に市内自主防災組織に、平成30年度の活動状況のほか「地区防災マップの作成」「避難行動要支援者名簿の提供」等について、市の事業推進を図るため各組織のご意向をお伺いしたものであり、公表等を目的としたものではございませんでした。市では、そのアンケートを基に、作成したいとの意向があった組織へ「地区防災マップ」等の作成について、お声掛けさせていただいております。西仙北地域におきましても、8月に防災訓練を控えていたことから、5月に開催した自治会長会の中で、全ての自治会に防災訓練への参加依頼と併せて「地区防災マップ」の説明と作成をお願いし、作成の意向があった団体には個別に説明・相談等させていただいております。 なお、ご質問されたH様が事務局を努める「日の出町自主防災会」でも、7月以降、本格的に作成に取り組んでいただいていると伺っており、支所担当からの情報では間もなく完成予定と伺っております。

No.	開催場所等	いただいたご意見	担当課	担当課の回答
19	中仙	広報で月初めに見た情報も、月末になると忘れてしまう。市全体の広報は1回でもよいが、地域版でもう1回出せないか。	広報広聴課	同じ内容で地域版を発行する計画はありませんが、行事やイベント情報に関しては、広報紙のほかホームページやコミュニティFM、また、スマートフォンなどで利用できる市のフェイスブックやLINEからも時期を捉えて発信していますので、ご活用いただきたいと思います。
20	太田	みずほの里ロードが開通し、ロードや平行する道路も観光客の増加等で交通量が増えた。結構なスピードで往来しているので、安全面から重点的に区画線等の整備が必要と思う。	道路河川課	外側線については、全市的に幹線道路を主とした計画的な引き直しを実施しています。今後はさらなる効率化に資するよう整備を進めてまいります。
21	太田	財政が厳しいなら、最大の観光事業である「大曲の花火」の観覧者から100円程度の協力金を出してもらおうなど、市として財源を作る施策を考えた方がいいのでは。	観光課	現在、花火来場者から環境整備協力金という形で簡易トイレやゴミ箱設置等に関する経費の一部を負担していただいております。実施主体の花火実行委員会に情報提供いたします。
22	太田	イノシシ対策をお願いしたい。	農林整備課	市内でイノシシの目撃情報が寄せられたことから、昨年より「大仙市鳥獣被害防止計画」の対象鳥獣とし、有害捕獲を行う体制を整えております。今年度は太田地域で目撃情報があったことから、罠檻 <small>わなおかり</small> の設置を行いました。今後も関係機関と連携し、注意喚起や被害の未然防止に努めてまいります。
23	太田	小神成のほ場整備が進められているが、通学路、歩道整備を早めをお願いしたい。	道路河川課	ご意見をいただきました久保関古館線は、国の重点施策である通学路歩道整備事業として国の交付金を活用して事業を実施しております。近年、この施策に関する交付金が強化されていることから、費用対効果の高い事業の推進により早期整備完了に努めてまいります。
24	太田	小中学校を統合し、廃校する学校の校歌等を残してほしい。	教育指導課	校名や校歌、校章、校旗等については、関係小・中学校と教育委員会で組織する統合小中学校開校準備委員会で、制定に向けてその作業を進めてまいります。その際、児童生徒や住民の方々のご意見も踏まえて検討してまいります。
25	仙北	堤防のかさ上げが行われているようだが、かさ上げするよりも重機で掘削（河床しゅんせつ）を強く要望する。	道路河川課	近年、県管理河川の河床しゅんせつに関する要望をしており、継続して事業が実施されております。今後もいただいた要望を基に、引き続き事業の推進が図られるよう要望してまいります。

企画産業常任委員会

条例案1件、単行案11件、補正予算案1件を審査しました。審査では次のような質疑がありました。

●指定管理者の指定について

【問】温泉施設の指定管理料について、ほぼ似たような温泉施設なのに指定管理料にバラつきがあるが、極端に違う理由はなにか。

【答】施設の規模、立地条件、老朽度合いなどにより変わるが、算定上は平等に計算している。今後1年かけて見直しを行う中で、施設の全体の在り方も含め、総合的に勘案していく。

●補正予算「電子計算管理運営経費」について

【問】昨年度実施したRPA（※）の実証実験の状況について、教えていただきたい。

【答】昨年度、二つの業務で実証実験を実施している、一つは今回導入予定の固定資産税業務のデータ入力で、現状261時間かかっていた作業が85時間まで短縮されている。もう一つは、市県民税業務のデータ入力で、現状43時間かかっていた作業が32時間に短縮されている。こちらの業務については、短縮時間が芳しくなかったため見合わせている。今後も国からの情報提供等を参考に、年間に二つくらいの業務を増やしていきたい。

※RPAとは・・・ロボティック・プロセス・オートメーションの略語で、パソコン上で行われる業務プロセスを人に代わって自動化する技術。



総務民生常任委員会

条例案5件、単行案1件、補正予算案4件、陳情4件を審査しました。審査では次のような質疑がありました。

●会計年度任用職員制度の施行に関して

【問】交通指導員と防犯指導員に関する条例が廃止になるが、これからの指導員の身分の位置付けと報酬はどうなるのか。また、今後新たな条例等を定めることになるのか。

【答】交通指導員、防犯指導員の方々には有償ボランティアという新しい形で活動していただくことになる。報酬は現在より下回らないようにしたい。条例・規則ではなく要項を定めて運用していく。

●継続審査となっていた陳情第31号「田仲野地区の家屋移転希望者の家屋移転に関する陳情書」は、「家屋移転は難しいと思うが、水害が起り得る状況にはある。住民の生命と財産を守るため何らかの対策を講じる必要があるので、陳情書の“最善策を講じてください”の部分の一部採択すべき」との意見と「願意は妥当であり陳情内容を全て採択すべき」との意見がありました。挙手採決の結果、賛成多数により一部採択としました。

●陳情第32号「市議会として、秋田市新屋への地上イーゼス配備反対の意見表明を求める陳情」は、「第3回定例会で同様の請願は不採択となっている。今回採択とすることは考えられない」との意見と「願意は妥当であり採択すべき」との意見がありました。挙手採決の結果、賛成少数により不採択としました。

●陳情第35号の2「お金の心配なく、国の責任で、安心してらせる社会の実現のため社会保障制度の拡充を求める陳情」のうち、項目(2)は、「陳情の趣旨を実行しても社会保障制度の改善にはならないのではないかと」の意見と「願意は妥当であり採択すべき」との意見がありました。挙手採決の結果、賛成少数により不採択としました。

●陳情第36号「若い人も高齢者も安心できる年金制度の実現を求める陳情」は「国でもいろいろ考えてやっていることであり、年金の毎月支給などできないのではないかと」の意見と「願意は妥当であり採択すべき」との意見がありました。挙手採決の結果、賛成少数により不採択としました。

建設水道常任委員会

条例案2件、単行案1件、補正予算案5件を審査しました。審査では次のような質疑がありました。

●太田南部地区公園及び横沢東農村公園の指定管理者の指定について

【問】太田南部地区公園と横沢東農村公園は、教育委員会所管の太田体育館などのスポーツ施設と一括で管理をした方が、相対的に指定管理料も安価になるのではないか。

【答】市全体の問題なので、関係各課と協議してまいりたい。



太田南部地区公園

●補正予算「道路維持管理費の債務負担行為分」について

【問】限度額の2,250万円は、各支所からの要望額を積み上げた数字なのか。

【答】この2,250万円については、管理路線の延長で割合を定めて、それぞれ各支所に配分している。

【問】道路維持管理費に関しては、各支所からの意見を吸い上げる形で積み上げて精査し、債務負担行為の設定をしてほしい。

【答】今後は各支所の意見を聞き、十分考慮して予算化してまいりたい。

教育福祉常任委員会

条例案1件、単行案4件、補正予算案3件、陳情5件を審査しました。審査では次のような質疑がありました。

●大仙市一般職の職員の給与に関する条例及び大仙市一般職の職員の特殊勤務手当に関する条例の一部を改正する条例の制定について

【問】市立大曲病院に新たに設けられる診療部長という役職の特殊勤務手当を18万円とするとのことだが、他の役職の金額はどうなっているのか。

【答】院長が30万円、副院長が21万円、科長が15万円となっている。

●大仙市営八乙女球場及び大仙市八乙女運動公園テニスコートの指定管理者の指定について

【問】他のスポーツ施設の指定管理期間が5年間としているのに、当該施設に関しては3年間としている理由は何か。

【答】八乙女交流センターが指定管理期間を3年間としており、一体管理が望ましいため、期間を合わせて3年間としている。

●補正予算「民間保育所等整備事業費補助金」について

【問】保育所開設にあたり、運営会社の方に市の方から働き掛けはあったのか。

【答】当市の他にも候補地があり、検討した結果、当市が選択され、開設を打診された。

【問】保育士の確保はどうなるのか。既存の保育所との競合にならないか。

【答】保育士の引き抜き等が懸念されるが、運営側は東北管内、仙台市あたりから確保して連れてきたいとの意向である。ただ、引き抜きはしないということだが、地元からも若干名募集したいとのことで、個々に応募する可能性はある。

●陳情第35号の1「お金の心配なく、国の責任で、安心してらせる社会の実現のため社会保障制度の拡充を求める陳情」のうち、項目（1）は、「社会保障制度の拡充には、財政面での裏付けが必要。その裏付けがない現状では無理ではないか。」との意見があり、挙手採決の結果、賛成少数により不採択としました。

市民の声

ここ最近、日本各地で大雨による水害が、たびたび報道されます。台風が強烈になったり、線状降水帯ですっと同じ場所に雨が降り続けたり、今まで経験したことのないほどの雨量となり、水害が各地で起きています。

大仙市でも2017年7月の大雨による雄物川の氾濫。その支流の洪水被害なども甚大なものでありました。そのため、被害のあった雄物川の堤防のかさ上げや、橿岡川、土買川の改修工事も進んでいるようです。

この大雨の時、私の住んでいる地域でも、雄物川の増水により時間差で河川の水位が大きく変わる事が分かりました。大雨の直後には堤防の低い所や農地の一部が冠水しました。雨が治まった数時間後には、雄物川の水位が上がった影響で堤防を越水するところまで増水していました。このような事が各地で起

こつていると思われまます。これらをよく検証して対策を講じる必要が大切ではないでしょうか。

最近よく耳にする言葉に「想定内の雨量」があります。いつも想定内の大雨になるとは限りません。

水害時に低所排水のため稼働するポンプ等があると思いますが、定期的な点検をすること。また、支川には樋門（もん）があります。誰が管理して責任をもつて水害時に操作するのか。また、避難所が低地の場合、その場所が適正なのか等々、検討する必要があります。

ただ、人々が長年この地域に住み続けてきた中で自然災害は何度もあったと思います。河川も幾度となく流れを変えてきています。自然とは上手に付き合わないといけないし、また、私たちも減災のための努力をしなければいけないと感じています。

(仙北地域 60代男性)

議長交際費(10月1日~12月31日)

項目	件数	金額
予算額		900,000円
既支出額	65件	421,913円
今回支出額	26件	153,793円
内訳	弔慰	1件 10,000円
	慶祝	15件 80,000円
	協賛	10件 63,793円
予算残額		324,294円

3月定例会日程のお知らせ

- 2月21日(金) 本会議第1日(施政方針演説、議案等上程)
- 3月4日(水) 本会議第2日(一般質問)
- 5日(木) 本会議第3日(一般質問)
- 6日(金) 本会議第4日(当初予算質疑、議案質疑、委員会付託)
- 9日(月)・10日(火)・11日(水) 常任委員会審査
- 17日(火) 本会議第5日(委員長報告、質疑、討論、表決)

※現時点での予定であり、変更される場合があります。変更内容は随時、議会ホームページでご案内しています。



編集後記

あけましておめでとございます。昨年台風による被害が多くありました。停電や河川の氾濫による被害を受けた皆さまには、心よりお見舞いを申し上げます。本年は、大雨をはじめ台風や地震などの災害のない年であってほしいと願うものです。

さて、今年7月から東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。この夏のオリンピックを楽しみにして心待ちにしている方も多いことだと思います。各競技での日本人選手の活躍に期待し、表彰台をにぎわしてほしいと思う一人です。

これからも市民の皆さまに親しまれる「市議会だより」になるよう編集してまいりますのでよろしくお願いたします。

今年も市民の皆さまにとりまして良い年でありますようにお祈り申し上げます。

(副委員長 三浦 常男 記)

広報広聴常任委員会

- 委員長 挽野 利恵
- 副委員長 三浦 常男
- 委員 佐藤 隆盛
- 委員 石塚 柏
- 委員 藤田 和久
- 委員 小笠原 昌作
- 委員 小松 栄治
- 委員 後藤 健
- 委員 佐藤 育男



佐藤 育男